

◎注意事項をよくお読み下さい



# りそな 経済フラッシュ

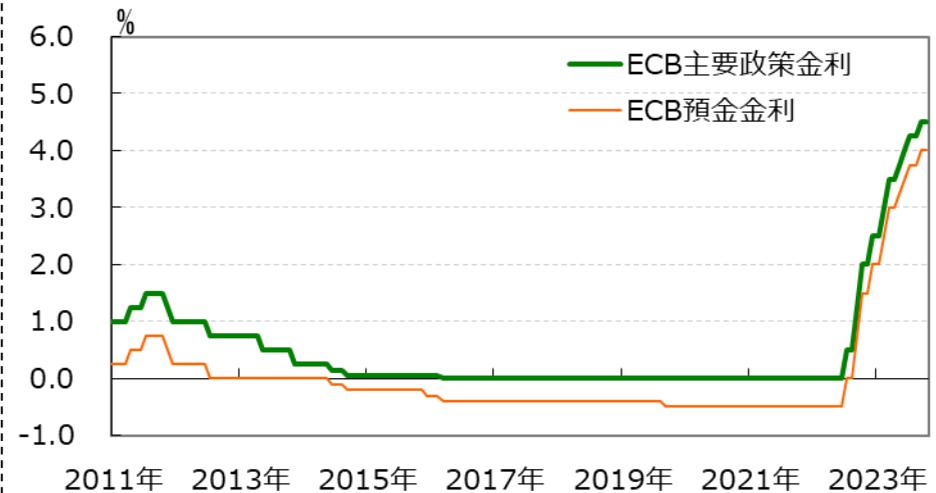
## (ECB <欧州中央銀行> 理事会)

### 〇 概況

- ◆ ECBは10/26の理事会で、11会合ぶりに利上げを見送り、政策金利を据え置く決定をした。
- ◆ ラガルド総裁は記者会見にて、金融政策の効果が表れるには時間がかかり、今回金利を据え置いたことは今後の利上げ可能性を否定するものではなく、利下げについての議論は時期尚早であるとの見方を示した。

- ✓ 10月26日に開催されたECB（欧州中央銀行）理事会では金利水準の据え置きを決定。中銀預金金利は4.00%、主要政策金利は4.50%、中銀貸出金利4.75%。市場予想通りで、発表後も反応は限定的であった。
- ✓ ECBは声明で、金利をこの水準で十分に長く維持すれば、インフレ率を目標の2%まで戻すことに大きく貢献するだろう、と改めて強調した。また、インフレ率は高すぎる状態が長く続くとなお予想され、域内の物価上昇圧力は依然として高い、との認識を示した。
- ✓ ラガルド総裁は記者会見にて「金融政策において政策効果の伝達には時間がかかる、ECBスタッフの判断によれば、政策はまだ伝達の過程にあり、実態に経済に今後さらに影響を与えていだろう。政策効果の波及は2023年末から2024年の第1四半期にかけて続く想定している。利下げについて議論することは全く時期尚早であり、今回金利を据え置いたことは今後の利上げは一切ないということの意味するものではない」などと発言した。
- ✓ また、ECBがパンデミック緊急購入プログラム（PEPP）で購入した債券のポートフォリオを早期に縮小させるかどうかが焦点となっているが、現行の計画変更について今回は議論はされなかったことも明らかにした。
- ✓ 市場では、最初の利下げがいつ行われるのかについて注目が高まっているが、高金利を長期間据え置くとのECBの方針を踏まえ、2024年6月以降の利下げがコンセンサスとなっている。

### 【ECB政策金利と預金金利】



### 【ECBスタッフ見通し（9月時点・今回は変更なし）】

	2023年	2024年	2025年
<b>実質GDP成長率</b>	<b>+0.7</b>	<b>+1.0</b>	<b>+1.5</b>
6月時点の見通し	+0.9	+1.5	+1.6
<b>HICP（消費者物価）</b>	<b>+5.6</b>	<b>+3.2</b>	<b>+2.1</b>
6月時点の見通し	+5.4	+3.0	+2.2

【出所】ECB、Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。